

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
日新電機コンデンサ新工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質						2.7	
Q1 室内環境			0.33			2.8	
1 音環境		3.0	0.15	-	-	3.0	
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-		
1 1 暗騒音レベル		3.0	1.00	-	-		
1 2 設備騒音対策		-	-	-	-		
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-		
1 1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-		
1 2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-		
1 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-		
1 4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-		
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境		2.5	0.35	-	-	2.5	
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-		
1 1 室温設定		3.0	0.38	-	-		
1 2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-		
1 3 外皮性能		3.0	0.25	-	-		
1 4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-		
1 5 温度・湿度制御		-	-	-	-		
1 6 個別制御		-	-	-	-		
1 7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-		
1 8 監視システム		-	-	-	-		
2.2 湿度制御		2.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		2.0	0.30	-	-		
3 光・視環境		2.4	0.25	-	-	2.4	
3.1 昼光利用		1.8	0.30	-	-		
1 1 昼光率		1.0	0.60	-	-		
1 2 方位別開口		-	-	-	-		
1 3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-		
1 1 照明器具のグレア		-	-	-	-		
1 2 昼光制御		3.0	1.00	-	-		
3.3 照度		2.0	0.15	-	-		
1 1 照度		2.0	1.00	-	-		
1 2 照度均斉度		-	-	-	-		
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境		3.8	0.25	-	-	3.8	
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-		
1 1 化学汚染物質	内装材について全面的にF☆☆☆☆を使用する。	5.0	1.00	-	-		
1 2 アスベスト対策		-	-	-	-		
1 3 ダニ・カビ等		-	-	-	-		
1 4 レジオネラ対策		-	-	-	-		
4.2 換気		1.6	0.30	-	-		
1 1 換気量		3.0	0.33	-	-		
1 2 自然換気性能		1.0	0.33	-	-		
1 3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-		
1 4 給気計画		-	-	-	-		
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-		
1 1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-		
1 2 喫煙の制御	喫煙室を設け、独立系統にて排気している。	5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.1	
1 機能性		2.6	0.40	-	-	2.6	
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.53	-	-		
1 1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-		
1 2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-		
1 3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性		3.0	0.37	-	-		
1 1 広さ感・景観		3.0	0.33	-	-		
1 2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-		
1 3 内装計画		3.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理		3.0	0.10	-	-		
1 1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-		
1 2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性		2.8	0.31	-	-	2.8	
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-		
1 1 耐震性		3.0	0.80	-	-		
1 2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.33	-	-		
1 1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-		
1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-		
1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-		
1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-		
1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要用途3種(給水・排水・消火)の2種以上にC以上を使用してい	4.0	0.15	-	-		
1 6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-		

2.3 適切な更新				-	-	-	-	
2.4 信頼性				2.2	0.19	-	-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	
3	電気設備			1.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			1.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.9	0.29	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり				4.2	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	階高を1階6m、2階4mとしている。		5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		500kg/㎡確保している。		5.0	0.31	-	-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース			3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.37	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制		事務所部分: PALポイント値=168 工場部分: 対象外		5.0	0.10	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.5	0.26	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電パネルを屋根面に設置する。		4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		環境配慮型高効率照明を採用している。 ERR=14.6		4.0	0.39	-	-	4.0
4 効率的運用				3.0	0.26	-	-	3.0
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマに加えて節水型FV等の省水型機器を用いている。		4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.6	0.63	-	-	3.6
2.1	材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	電炉鋼を採用する		4.0	0.21	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	床仕上:エコマーク認定塩ビシート 断熱材:グリーン購入法適合品		4.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	執務スペースにOAフロアを採用している。		4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.22	-	-	3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-	
1	消火剤	ABC粉末消火剤を使用		4.0	0.33	-	-	
2	断熱材			3.0	0.33	-	-	
3	冷媒			3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮				3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
2.1	大気汚染防止	燃焼機器を設置していないため、外部に大気汚染物質が発生しない		5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	リサイクルセンターにて分別収集・有価物回収を推進している		5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	0.33	-	-	
2	振動			3.0	0.33	-	-	
3	悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制				1.9	0.40	-	-	
1	風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2	日照阻害の抑制	近隣商業地域の5mラインに、2.5時間以上の日影を発生させない		4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	